

第5学年国語科学習指導案

児童 男子9名 女子10名 計19名
指導者 加藤 洋

- 1 単元名 目的に応じた伝え方を考えよう
教材名 中心教材 「ニュース番組作りの現場から」 (説明文)
「工夫して発信しよう」
補助教材 「新聞ができるまで」(自作教材)
「ニュースを伝える」 (説明文)

2 単元について

(1) 児童について

児童は、1学期の説明文教材「サクラソウとトラマルハナバチ」において、内容を的確に押さえながら要旨を捉え、筆者の考えに対して自分の考えを明らかにしてまとめる学習をしてきた。この学習を通して、文章構成を意識しながら要点をまとめることや筆者の考えを読み取ることができるようになってきた。しかし、筆者の考えに対して、自分の考えをもつことについては個人差が大きい。国語についての意識調査の結果、『物語文や説明文の学習で自分の考えを話すことが好きですか。』という質問に対しては、19名中13名が、好きではない、あまり好きではないという回答をしていた。そのことから、考えを発表する事に苦手意識をもっている児童が多いことが分かる。

また、1学期には、「言葉の研究レポート」という教材で、情報を発信する学習に取り組んでいる。その学習では、情報を調べ、整理し、発表する学習に関心を示し、意欲的に取り組むことができた。しかし、伝えたいことがはっきりしていなかったり、まとめる段階でインターネット資料の文を丸写しするなど、話題を見つたり、まとめたりする力は、まだ十分に身につけていない。

また、5年生になってからの様々な教科の学習で、隣同士や班で意見を交流する場面を何回か設けている。その学習を通して、意見を伝えたり、友達の考えを聞く力は育ってきた。しかし、お互いに質問をしたり、よりよい助言をしたりする力は、まだ十分に育っていないのが現状である。

以上のことをまとめると、まだ十分に身につけていない力として、「自分の考えをまとめ、発表する力」「話題を見つけ、まとめる力」「深まりのある話し合いをする力」を上げることができる。本単元では、それらの力を付けさせるための手立てを組んでいきたい。

(2) 単元及び教材について

本単元「目的に応じた伝え方を考えよう」は、ニュース番組作りや新聞作りについて書かれた文章を読み取り、そこで学んだことを生かして自分たちでも実際に情報を収集・選択し、新聞として発信する活動を行う単元である。「新聞作り」に限定した理由は、話題を見つけ文章にまとめる力が十分に身に付いていないという児童の実態から、「新聞作り」に取り組ませることが、今の段階の児童にとって最適であると考えたからである。

第2次で扱う、中心教材「ニュース番組作りの現場から」は、ニュース番組の特集の作り方を取り上げ、時間に沿って報道スタッフの役割や情報収集、編集会議のあり方、伝えたい内容の絞り込み等について分かりやすく学ぶことができる教材である。その教材を読み取る中で、新聞作りとの共通点や相違点を考えさせることによって、新聞作りの場合はどうすればいいのか、という観点から読み取りを進めていくことができると考える。また、「工夫して発信しよう」は、新聞等による情報発信の手順について具体的に学ぶことができる教材である。

第3次で扱う、補助教材「新聞ができるまで」は、新聞を作る時に気をつけることや大事にする点を、新聞記者から教えてもらう形で、具体的に学ぶことを意図した自作教材である。また第3次では、補助教材から学んだことを生かして、実際に写真を選ぶ練習をするなど、より実践的に新聞作りについて学ばせていく。ここでは、「和賀西小学校紹介新聞作り」に向けて、第2次だけでは学び切れなかった「記

事の書き方」「レイアウト」「見出し作り」「写真選び」など、新聞作りの具体的なポイントについて、理解を深める学習を行う。そして第2次と第3次の学習をもとに、第4次の新聞作りを進めていきたい。

(3) 指導にあたって

本単元の指導にあたって、「ニュース番組作りの現場から」と「新聞ができるまで」を読み取る段階で、単に内容を読み取る学習で終わるのではなく、読み取ったことを基に、自分たちの新聞作りに生かせる点は何か、また自分ならどのような新聞を作るのかなど、常に新聞作りを意識した自分の考えをもたせるようにする。また、実際の新聞作りの段階では、教材文での学習を基に、しっかりとグループで話し合い、企画を立てさせる。そして、見つけた話題を新聞として分かりやすくまとめさせるようにする。

仮説に関わっては、仮説①「課題を明確にする工夫」として、単元のゴールには、保護者や地域の方に、和賀西小の伝統や行事などについて、新聞を通して分かりやすく説明するのだということを、導入段階できちんと意識させるようにする。また、各時間にも、最終的には「和賀西小学校紹介新聞」を作るのだ、という意識をしつかりともたせながら授業を進めていくようにする。そのために、読み取ったことを基に実際に編集会議の練習をする場面を設けたりする。また、仮説②の「自分で読み進める工夫」として、既習事項を使って読み取りを進めることを特にも意識して学習に取り組ませるようにする。例えば、「新聞ができるまで」の読み取りでは、「ニュース番組作りの現場から」で学んだ読み取り方を生かして、要点をまとめさせるようにする。また、新聞で使う「写真」についての学習の場面では、4年生で学習した写真の「アップ」と「ルーズ」について、振り返らせたりする。仮説③「言語能力を高める工夫」としては、文章構成や段落のつながりをきちんと意識させながら、教材文の読み取りを進めていくようにする。また、新聞の5W1Hなどの知識を高めるために、本物の新聞記事を準備するなど、モデルとなる教材を準備し、言語能力や新聞作成能力を高めることができるようにする。

3 単元の目標

〔目標〕

- ◎ニュース番組や新聞がどのように作られているかを知り、伝えたいことと伝える方法について興味を深める。
- 伝えたいことを新聞でどのように伝えるかをグループで協力して考え、保護者や地域の方に発信する。

〔国語への関心・意欲・態度〕

- ・教材文などから新聞作りに必要な情報を積極的に得ようとしている。
- ・保護者や地域の方に伝えるという目的意識をもって、新聞作りに取り組んでいる。

〔書くこと〕

- ・情報発信のための編集作業をもとにして、新聞原稿を書いている。(書くこと イ)

〔読むこと〕

- ・ニュース番組作りや新聞作りで大切な点を正確に読み取っている。(読むこと イ)

〔言語についての知識・理解・技能〕

- ・文章構成や段落の役割を理解している。(言語事項 オ)

4 指導計画と評価規準（16時間 本時8／16）

次	時	学習活動	関・意・態	書くこと	読むこと	言語事項
一 次	1	○新聞記事を読み、感想を発表し合う。 ○今までの新聞作り	新聞作りに 関心をもち、 どのような新			

		<p>の経験を振り返りながら、より良い新聞を作るために、どのようなことを学んでいけばいいか考える。</p> <p>○和賀西小のことを、新聞を通して地域の方や保護者に知ってもらうというめあてをもち、学習計画を立てる。</p>	<p>聞にしたいか、またそのためにはどのようなことを学んでいけばいいかを進んで考えている。</p> <p>(観察・発言)</p>			
二次	2	<p>○教材文(「ニュース番組作りの現場から」「工夫して発信しよう」)を読み、初めて知ったことや興味をもったことについての感想をノートに書き、交流する。</p>	<p>意欲的に感想を書いたり、発表したりしている。</p> <p>(発言・ノート・観察)</p>		<p>全文通読を通して、内容の大体をつかみ、感想をもつことができる。</p> <p>(ノート)</p>	<p>新出漢字や語句の意味を理解している。</p> <p>(ノート)</p>
	3	<p>○「ニュース番組作りの現場から」を読み、ニュース番組作りの過程で、大事な点や気をつけることを読み取り、理解する。</p>	<p>教材文に関心をもち、進んで読み取ろうとしている。</p> <p>(ノート・観察・発言)</p>		<p>ニュース作りの各過程で大事な点を正確に読み取っている。</p> <p>(ノート・発言)</p>	<p>文章構成に着目して読んでいる。</p> <p>(ノート)</p>
	4	<p>○「ニュース番組作りの現場から」・「ニュースを伝える」・「新聞作りについて書かれたインターネット資料」など、複数の資料を読み、ニュース番組作りと新聞作りの共通点と相違点を考える。その作業を通して、新聞ならではの特徴を理解する。</p>	<p>ニュースを伝える仕事に携わっている人の、努力や願いについて、進んで考えようとしている。</p> <p>(ノート・観察)</p>		<p>いくつかの資料を読むことで、ニュース番組作りと新聞作りの共通点と相違点を考えることができる。</p> <p>(ノート・発言)</p>	
	5	<p>○ニュース作り(新聞作り)の努力や願いについてグループで話し合う。</p> <p>○「工夫して発信しよう」を読み、情報発信までの手順を確認する。(新聞を作ることを意識しながら)</p>	<p>ニュースを伝える仕事に携わっている人の、努力や願いについて、進んで考えようとしている。</p> <p>(ノート・観察)</p>		<p>情報発信までの手順を正確に読み取っている。</p> <p>(観察)</p>	
三次	6	<p>○いくつかの新聞記事を見ながら、新聞記事の「書き方の工</p>	<p>自分たちの新聞作りに生</p>		<p>新聞記事の書き方に注意して、複数の</p>	<p>新聞記事を書くときの「5W1H」</p>

		夫」について考える。	かすために、 進んで新聞作 りの工夫を考 えようとして いる。 (ノート・観察・発言)		新聞記事を読 むことができ ている。 (ノート・観察・発言)	について理解 することがで きている。 (ノート・発言)
	7	○『新聞ができるま で』を読み、「取材 する時に意識する こと」と「写真の選 び方」を理解する。 ○「写真の選び方」 を、グループで練習 する。			新聞作りの 各過程で大事 な点を、正確 に読み取って いる。 (ノート・発言)	
	8 本時	○『新聞ができるま で』を読み、「見出 しのつけ方」を理解 する。 ○「見出しのつけ方」 をグループで練習す る。				
四 次	9 ・ 10	○「和賀西小学校紹 介新聞」で伝えたい 事柄を決め、取材計 画を立てる。 ○伝えたい中心や取 材計画を企画書に書 く。 (わにっこ新聞社企画会議)	目的意識を もって、進ん で企画書を書 いている。 (観察・企画書)	今までの学 習を生かし、 自分の身の回 りの事柄と関 連付けて企画 書を書いてい る。 (観察・企画書)		
	11 ・ 12 ・ 13 ・ 14	○企画書に従って、 新聞記事にするた めの取材を行う。 (わにっこ新聞社取材活動) ○取材してきたこと を編集し、清書する。 (わにっこ新聞社編集会議) (家庭学習や休み時 間も活用する。)	目的意識を もって、進ん で取材・編集 の作業に取り 組んでいる。 (観察)	目的に 応じて必要な 材料を集め、写 真や図表との 関係も考えなが ら新聞原稿を 書いている。 (観察・新聞原稿)		
	15	○お互いの新聞を見 比べ、これまで考 えてきた「分かりや すい新聞」の観点 をもとにして意見 交換をする。	お互いの新 聞で工夫した 点の良さを見 つけ出そうと している。 (観察・発言)			
	16	○保護者や地域の 人たちに新聞の発 表をする。発表を 聞いてくれた方の 感想を聞いたり しながら、活動 を振り返る。 (わにっこ新聞社発表会) (オープンスク ールデーに発表 する。)	単元全体を 振り返り、情 報の発信と受 信について、 考えを深めて いる。 (発言・ノート)	当初の意図 に合った内容 や活動となっ たかについて、 感想を書い ている。 (ノート)		

5 本時の指導

(1) 目標

新聞の「見出し」作りで大事な点を教材文から読み取ることで、見出し作りのポイントを理解し、実践することができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価の観点	具体的評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる。	C 努力を要する児童への手立て
新聞の「見出し」作りで大事な点を読み取り、その読み取ったことをもとに、実際の新聞記事の「見出し」を作ることができる。	「見出し」作りで大事な点をまとめるとともに、新聞記事の内容にあい、読み手をひきつける見出しを作っている。	「見出し」作りで大事な点をまとめるとともに、新聞記事の内容にあった見出しを作っている。	紙板書に書かれた既習事項を振り返りながら、一緒に考える。	

(3) 展開 (8 / 16)

段階	学習活動	支援・留意点 (・) 評価 (*)
つかむ 3分	<p>1. 学習課題の確認</p> <p>① 本時の学習課題を確認する。</p> <p>読み取った大事な点をもとに、新聞記事の見出しを作ってみよう。</p> <p>② 読みの視点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの新聞作りに生かせそうな大事な点。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習を振り返りながら、本時の学習課題を確認する。 自分たちの新聞作りに生かしていくための、本時の学習であることを確認する。
ふかめる 39分	<p>2. 学習場面の音読</p> <p>「新聞ができるまで」を音読する。</p> <p>3. 学習課題の解決</p> <p>① 「新聞ができるまで」を読み、見出し作りで大事な点をまとめる。</p> <p>○ 大事な点を見つけ、箇条書きで書く。</p> <p><u>見出し</u> → ・記事の内容が分かる言葉 ・読者の目にとまる言葉 ・短く、リズムがいい言葉 ・読者が読みたくなるような言葉</p> <p>○ ペアで確認した後、全体で交流する。</p> <p>② 大事な点をもとに、よりよい見出しを検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> スラスラ読めるように声を掛ける。 なかなか大事な点を見つけられない子には、掲示してある「ニュース番組作りの現場から」で学んだ要点の捉え方を振り返りながら助言する。 <p>* 「見出し作り」で大事な点を読み取るができるか。 (ノート・発言)</p>

	<p>○いくつかの見出しの中から、自分がよりよいと思った見出しを、その理由とともにノートに書く。 (いいモデル、悪いモデル混在から検討させる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉のリズムがいい。 ・内容と見出しが合っている。 ・引きつけられる。 <p>○ペアで交流したあと、全体に発表する。</p> <p>○見出しから記事の内容を推測する。</p> <p>③「新聞ができるまで」で学んだ大事な点と、モデルとして見た見出しを参考にして、新聞記事に、『見出し』をつけてみる。</p> <p>[指導者が作成した『市内陸上大会』について書かれた新聞記事をもとにして編集会議(見出し作り)の練習をする。]</p> <p>○『市内陸上大会』に書かれた記事にふさわしい見出しとその理由を各自で考える。</p> <p>○グループで、どんな見出しがいいか話し合う。(編集会議の練習)</p> <p>○決まった見出しと、その見出しになった理由を発表する。</p> <p>○よい見出しの条件と照らせ合わせながら、どのグループの見出しがよりよい見出しか、全体で話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか理由が書けない子には、見出し作りで大事にすべきことを振り返らせる。 ・ペアで話し合うことで、自信をもって発表できるようにする。 ・見出しから内容を推測しやすい記事を選ぶようにする。 ・なかなか考えられない子には、「大事な点」が書かれている板書を活用して助言する。 ・話し合いの手順を書いた紙を渡すなどして、リーダーを中心とした活発な話し合いになるように支援する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>*読み取ったことを生かして、記事の内容にあった「見出し」を作ることができているか。 (ノート・話し合い)</p> </div>
<p>まとめ 3分</p>	<p>4. 学習の振り返り</p> <p>①本時の学習の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見出しは、記事の内容にあい、読者が読みたくなるようなものにする事が大事であることを学びました。また、編集会議のあり方など、今日の学習で学んだ事を今後の新聞作りに生かしていきたいです。 <p>②本時の学習の自己評価をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「分かったこと」「考えたこと」「今後の学習に生かしたいこと」などの視点を与え、感想を書かせるようにする。 ・特にも意欲面を自己評価させるようにする。

6 板書計画

目的に応じた伝え方を考えよう

読み取った大事な点をもとに、新聞記事の見出しを作ってみよう。

読みの視点
自分たちの新聞作りに生かせそうな大事な点

「新聞ができるまで」
見出し

- ・記事の内容が分かる言葉
- ・読者の目にとまる言葉
- ・短くりズムの良い言葉
- ・読みたくなるような言葉

市内陸上大会の新聞記事

見出しは？

